

令和3年第5回議会運営委員会

【日時】令和3年3月19日(金)午前9時

【場所】第1委員会室

1 開会

2 委員長挨拶

3 協議事項

- (1) 閉会日追加議案について
 - ア 執行機関側提出議案 なし
 - イ 議会議案 なし

- (2) 閉会日の日程について

資料 No. 1

議会の自律的な運営事項

- (3) 次期議会運営委員会への申し送りについて

資料 No. 2

- (4) 議会改革推進会議の総括と次期への申し送りに関して

資料 No. 3

- (5) 定例会の反省について

- (6) 議長記者会見について

4 その他

5 閉会

令和3年飯田市議会第1回定例会

議事日程（第4号）

月	日	曜日	日 程
3	19	金	<p>午前10時 開議</p> <p>日程第1 会議成立宣言</p> <p>日程第2 議席の変更</p> <p>日程第3 会議録署名議員指名</p> <p>日程第4 委員長報告</p> <p>(1) リニア推進特別委員会</p> <p>(2) 社会文教委員会（請願2件）</p> <p>(3) 産業建設委員会（請願1件）</p> <p>日程第5 議案審議</p> <p>(1) 総務委員会付託議案（2件） 議案第11号及び議案第12号 委員長報告、質疑、討論及び採決</p> <p>(2) 社会文教委員会付託議案（5件） 議案第13号、議案第14号、議案第17号、議案第18号、及び議案第23号 委員長報告、質疑、討論及び採決</p> <p>(3) 産業建設委員会付託議案（6件） 議案第15号、議案第16号、議案第21号、議案第22号、議案第45号 及び議案第46号 委員長報告、質疑、討論及び採決</p> <p>(4) 予算決算委員会付託議案（21件） 議案第24号から議案第44号まで 委員長報告、質疑、討論及び採決</p> <p>日程第6 所管事務調査の報告</p> <p>日程第7 議員派遣</p> <p>閉会</p>

議会運営委員会 次期への引き継ぎ事項（案）

令和3年3月19日 議会運営委員会

1 飯田市議会の情報通信機器の使用に関する先例集の見直しについて

令和3年第1回定例会からタブレット端末を使用したペーパーレス会議を試行している。会議におけるタブレット端末の使用だけでなく、情報伝達的手段としても活用可能となったことから、先例集にある議案等の配布やファクスによる連絡等に関しても適宜見直しが必要である。

2 議案に対する質疑等について

2月17日の議会運営委員会において、委員から「議会における質疑等について、直近の会議で話題となった。議会が見える形でより適切な方向への取り組みを行うべき」との発言があった。これを受け、議会の質疑等に関する課題を整理し、議会運委委員会で協議を行った。3月9日に開催した議会運営委員会において、「議案に対する質疑等について留意すべき事項」として6項目を確認し、翌10日に開催した全員協議会勉強会において、全議員で共有した。

議員は改選を迎えるが、今後も会議のルールに従った節度ある発言が要求されるため、次期の議会運営委員会においても、議会の質疑等に関する研修を実施するなど、継続的な取り組みが必要である。

議会改革推進会議の総括と次期への申し送りに関して

議会改革推進会議

1 今期の議会改革推進会議の振り返り(総括)

(1) 議会ICTの推進について

タブレット端末の導入、議会のICT化については、前期の議会改革推進会議から引き続いて議論を進めてきた。議会ICT化に向けてタブレット端末を導入する方向を全会派に確認した後、令和2年3月に議会運営委員会へ報告した。以降、タブレット端末を導入に向けて諸課題を整理して検討を重ね、「議会ICT化に向けたタブレット端末の導入に関する報告書」としてまとめ、令和2年6月に議会運営委員会へ報告して確認されるとともに、議会のICT化やICTシステムの同時導入について執行機関側へ共同研究を依頼した。

令和2年8月には、コロナウイルス感染拡大を見据えた市役所機能の維持・継続の必要から、コロナ特別交付金を活用した情報通信のためのハード整備にかかる補正予算に合わせ、市議会も、議会・議員活動、議会機能を維持・継続する必要から、Web会議システムの早期導入、オンライン会議の実現に向けて、タブレット端末の早期導入の方針を決め、同年9月の令和2年第3回定例会で予算措置された。また、タブレット端末を活用した議会のペーパーレス化について検討も進め、第4回定例会でペーパーレス会議システムの試行にかかる予算を措置。

会議等における情報通信機器の使用に関する規程、議員が自主的にタブレット端末を適切に使用するためルールづくり(申し合わせ事項)について、原案を検討し、議会運営委員会へ報告して決定された。これにより、タブレット端末を用いたペーパーレス会議システム(サイドブックス)について、令和3年2月からの第1回定例会からの試行に至っている。また、業務連絡についても、チャット形式のアプリケーションソフト(Logoチャット)が導入されて運用が始まっている。

今後のタブレット端末のさまざまな活用や、さらなる議会ICTの推進は、議員改選以降となる見込み。

* 以下の飯田市議会ホームページサイトもご参考ください。

[飯田市議会>議会改革の取り組み>議会改革等の取り組み状況>議会ICT化について](https://www.city.iida.lg.jp/site/assembly/gikai-ict.html)

<https://www.city.iida.lg.jp/site/assembly/gikai-ict.html>

(2) 一般質問を通じた議員力・議会力の向上について

正副議長からの依頼を受けて、「(一般質問が)このままでよいのか」という動機付けから、平成29年3月に議会改革推進会議が編集した冊子「『たかが一般質問、されど一般質問』が生かされているか」について協議を重ね、「議員力の向上」における冊子の活用の重要性とともに、一般質問を通じた「議会力」の向上についても、議論・検討を進めた。令和2年11月に龍谷大学教授の土山希美枝先生を招聘して

勉強会を開催、北海道の別海町議会の一般質問検討会議の様子をオンライン見学も行った。これまでの取り組みから令和2年12月の第4回定例会の代表質問・一般質問を振り返り、課題や方向性などを整理した。整理まとめを以下の点でまとめ、令和3年2月17日の議会運営委員会へ報告を行った。

ア 冊子『たかが一般質問、されど一般質問』などを生かした議員力の向上

イ 議会力を向上させるための「一般質問を、政策資源に高めていくシクミ」の研究・検討

項目アでは、議員各自において自身の一般質問について考えていくこと、つまり研鑽が重要であり、改めて、冊子の活用を推奨。項目イでは、①「ひとりでやる一般質問」の限界について、複数の議員が同じテーマについて異なる論点や視点で質問を行う、つまり、「議員間連携」の重要性、②一般質問を「議員ひとりのもの」にしないシクミ、課題の共有化としての手法として「委員会代表質問」や「一般質問の関連質問」の可能性の検討、③関連質問による「ひとりぼっちの一般質問」のフォローや重層化、の3点で整理した。

* 以下の飯田市議会ホームページサイトもご参考ください。

[議会改革の取り組み > 議会改革等の取り組み状況 > 一般質問を通じた議員力・議会力の向上について](https://www.city.iida.lg.jp/site/assembly/shitumonryoku.html)

<https://www.city.iida.lg.jp/site/assembly/shitumonryoku.html>

(3) その他

ア 災害時の対応マニュアルの作成

有事に備え、有事において議員が十分に行動できるようにすることを目的とした「議会災害対応指針」を基に、議会・議員が、有事発生の際に速やかな行動がとれるように「災害時等行動マニュアル」を検討・作成し、令和元年11月の議会運営委員会へ提出し、確認された。地震による災害、台風や大雨による風水害の区分別の議員の初動がわかり易くなるとともに、議長の役割や議会災害対策会議の設定などが改めて確認され、その後のコロナウイルス感染症拡大にかかる議会としての対策、対応へつながった。

イ 議会議員の政治倫理に関して

議会運営委員会からの依頼を受けて、政治倫理に関する研修について検討した。廣瀬和彦先生を講師招聘することを議会運営委員会へ提案し、準備のため事前に講義内容の確認を計画。令和元年9月に災害時相互応援協定を結ぶ千葉県君津市などを襲った台風15号の影響により、東京で開催された研修への委員の受講がかなわなかった。以降、講師招聘による講演会の開催の実施が日程などにより難しいと議長が判断し、令和元年12月に廣瀬和彦先生の研修を受講できた事務局の報告による研修を全議員対象として実施。

2 次期への申送り事項について

(1) 議会 I C T の推進に関して

令和3年2月からのタブレット端末の使用、同じく令和3年第1回定例会からのペーパーレス会議システムの**試行から、課題等を整理し、改善等に向けた協議・検討が必要**になる。また、試行に関する振り返りにおいては、執行機関とも十分な連携をとっていかれたい。

議会 I C T の推進の目的は、I C T システム（端末やアプリケーション）の利便を生かした「議会機能の強化」である。そのためには、I C T を活用した議会活動の情報発信、市民への説明（プレゼンテーション）のための情報通信機器の活用、議案審査や一般質問などの記録を含む議会・委員会活動などのデジタルアーカイブ化などが今後が必要と考える。前段のタブレット端末の使用やペーパーレス会議システムの試行からの課題を含め、協議検討していく議会内の体制をどうするかということもあるが、議会運営委員会からの指示があれば、引き続き、議会改革推進会議において扱い、議会 I C T を推進されたい。

(2) 一般質問を通じた議員力・議会力の向上に関して

議員力の向上は、議会・議員において不断の努力・研鑽が求められるものであり、一般質問においては、冊子『たかが一般質問、されど一般質問』の活用とともに、課題などに対する議員間の共有化が重要となる。一般質問に関する検討を重ね、さらなる議員力の向上・課題の共有化を図られたい。

令和2年第4回定例会では、「委員会の了解のもと」、「委員会の総意として」委員会所管事務調査研究のテーマを取り上げた一般質問がされた。一般質問を議会の政策資源に高めるため、それらを参考に、一般質問を「議員ひとりのもの」にしないシクミとして、また、課題の共有化の手法として、その可能性の模索や有効性の検証の検討は続けられたい。例として今期に検討した「委員会代表質問」「一般質問の関連質問」なども研究されたい。